



一宮歩こう会 青春の東海道歩き

かわら版 22号

5月28日、第15ステージは本隊が掛川城からJR金谷駅まで。観光隊はJR掛川駅からJR金谷駅までである。両隊とも掛川城からことのまま事任八幡宮まではバスで移動した。その先の中山峠の厳しさから体力の消耗を防ぐ措置である。3回目の雨で石畳は厳しかった。観光隊のスタートが掛川駅なのは、下見時に「掛川と言えはやはり【まちづくり】、駅からお城までに象徴される掛川の【まちづくり】について話してほしい」と要請したからである。駅ではガイドさんが「生涯学習まちづくり」というパンフを用意して待っていてくださったが、バスの車中でも小塩会長が前座として掛川の【まちづくり】について説明した。

前座講義概要

ご存知の方も多いと思いますが掛川市は生涯学習都市がキャッチフレーズです。生涯学習という言葉は昭和52年1977年に榛村純一さんが市長に当選されて初めて創られた言葉でそれから文部省をはじめ全国に広がりました。榛村純一さんは以後6期24年に渡って市長を務められ、まちづくりのテーマパークとも言われ視察者の絶えない地方都市経営のモデルともなった有名な方です。

①まずバスを降りて新幹線掛川駅に入ります。昭和63年1988年新幹線で初めての請願民衆駅として開業しましたが、新幹線掛川駅構想は昭和52年9月、市長当選直後の12月に発表されています。随分時間がかかっていますがこの間に国交省など中央から助役を誘致するしたたかさ、新幹線市民募金30億円を集めてしまう知恵を見習うべきかと思います。1戸平均10万円、1社平均100万円をお願いして5年間で30億円を集めました。次に東名のインターを創る出資金12億円を集め、掛川城天守閣では白木はなさんの5億円の喜捨を含め10億円の市民募金に成功しています。dny巻き込むうまさは凄いものです。ガイドのお一人は市長に洗脳されてガイドになったと言っておられました。

②駅に入りますと「これっしか処」という第3セクターの店があります。これだ、ここしかない物だけ売っているこだわりの店です。掛川は茶処ですがいままでの農業は生産地が貧乏して番茶を飲み、一番茶は東京へ送っていた。これではいけない。あまりおいしいのでおすそ分けしてあげる感覚を持つと言うのです。哲学がありますね。それとネーミングのうまさを学びましょう。

③掛川市では生涯学習を展開するために成人式に次いで30歳、40歳、50歳、60歳、と90歳まで10年ごとに年輪の集いという人生の通過儀式を行っている。ガヤガヤで始末の悪い成人式よりはるかに意義深く60歳が一番出席率が高く人生を勉強しようとする姿が多いそうです。日本は学歴社会で人間の価値を18歳や22歳の最終学歴で判断してしまうが、問題はそれから後の60年に何をいかに学んだかが大切であり、生涯学習の区切りが年輪の集いである。掛川市には大日本報徳社という二宮金次郎の本山がありますが、報恩思想によるまちづくりが彼のもう一つの哲学です。市民が5つの力を出さなければならない。①汗を出す、②知恵を出す、③土地を出す、④お金を出す、⑤賛成と言う協力の掛け声を出す、これがポイントです。

駅前通りはお城を借景にした和風の緑豊かなショッピングストリートというコンセプトで、林業家出身の榛村市長のもう一つの哲学が表れています。



新幹線の車窓から見えるお城として有名な掛川城天守閣は、日本で初めての木造による再建城です。徳川幕府は全国の城閣管理の一環として正保元年(1644)に諸大名に城絵図の提出を命じました。これをもとに平成6年140年ぶりに木造により再建されたのです。その費用は白木はなさんの5億円の喜捨を含め10億円の市民募金で賄いました。



東海道の難所のひとつ中山峠越えには2つの石畳道がある。小夜の中山公園を過ぎたところにある「菊川坂」と、諏訪城址を過ぎたあたりの「金谷坂」である。